

大分類	中分類	定義	例
不慮	医療上の事故	医療従事者または一般の人が治療目的で投与した結果発生した事故全て。医薬品の誤った量、正しくない投与経路、誤った人への投与、誤った物質の投与等の場合が含まれる。	<ul style="list-style-type: none"> ・病院内で別の患者の薬を間違えて投与した ・病院内で皮下注用製剤を静脈注射した ・薬局でラベルの貼り間違い、薬の入れ間違い ・家庭で赤ん坊に小学生の兄の薬を飲ませてしまった ・家庭で薬と間違えてお酒を飲ませた ・家庭で目薬をさすつもりが誤って近くにあった耳垢軟化剤を使用した ・家庭で母親が子供に飲ませたのに、父親がもう一度飲ませた ・保育所で、先生が預かっている子供に薬の量を間違えて飲ませた
	誤使用	あくまでも故意ではないが、判断能力のある人が誤使用をした場合(使用法をよく読んでいない、誤解している等、本来の使用方法であれば防ぐことのできた事故)。有毒または無毒植物を誤認した場合も含む。治療目的の事故は含まない。	<ul style="list-style-type: none"> ・湯飲みに入っていた漂白剤希釈液を夫が知らずに飲んだ ・湯飲みに入っていた漂白剤希釈液を忘れて自分で飲んだ ・ペットボトル入りの自家製化粧水をドリンクと間違えて飲んだ ・レトルトのご飯に入っていた脱酸素剤をゴマと思ってかけて食べた ・職場で、洗浄中のポットに入っていたお湯を使ってお茶を入れた ・サイホンの原理を利用しガソリン等を誤飲した ・不注意で漂白剤とアンモニアを混ぜ、有毒なガスが発生した ・風呂掃除していたら、カビとり剤を1本使い切っていた ・換気をせずに、カビとり剤を使った ・車庫の中で車のエンジンをかけっぱなしにしてしまった ・ゴボウと間違えてチョウセンアサガオの根を食べた
	その他の不慮の事故	労災、医療上の事故、誤使用以外の不慮と判っている事故。小児、痴呆の患者、知的障害者等の誤飲事故はほとんどの場合、ここに入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・湯飲みに入っていた漂白剤希釈液を子供がいたずらしてなめた ・子供が勝手にシロップ剤を2回分飲んでしまっていた ・水銀体温計を割ってしまい、少量飲み込んだ ・家庭菜園で農薬散布中、風向きが変わり、少量吸ってしまった ・高速道でタンクローリーが横転、近隣住民がガスを吸った ・火事のところを通りかかり、煙を吸った ・水道水への混入
	不慮不明	不慮と判っているが、状況が不明の場合。	
故意	自殺企図	自殺を目的とした場合。死ぬ意志がない場合(狂言、自傷行為等)も含む。	・夫婦喧嘩の末、腹いせに
	医療上の事故	精神的効果を得る以外の目的で、薬効を期待して過量に使用された(使用した)場合。	・良く効くと思って、痛み止めをわざわざ倍量飲んだ
	誤使用	精神的効果を得る以外の目的で、故意に不適切、正しくない使用をした場合。	・故意に混合させたり、殺虫剤を明らかに不適切に使用した
	乱用	精神的効果を得る目的で、故意に不適切・正しくない使用をした場合。シンナーを故意に吸入した場合。	<ul style="list-style-type: none"> ・シンナーを故意に吸入した ・ガスパン遊びをした ・マジックマッシュルーム、5-Meo-DIPT等の幻覚剤、覚せい剤を故意に使用した
	悪意による事故	他人から悪意をもって使用された場合や、被害を加えられた場合。テロ・他殺・いじめを含む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある団体が駅前でまいたホスゲンを吸った ・殺害目的の異物混入 ・殺害目的以外の異物混入 ・催涙ガスをかけられた
	故意その他	故意であるが、自殺企図、医療上の事故、誤使用、乱用、悪意以外の場合。	・なんとなく
	故意不明	故意と判っているが、状況が不明の場合。	・統合失調症患者で、問診が取れない状況である
その他	その他	不慮、故意以外の場合。	
不明	不明	不慮か故意かを含め、状況が不明の場合。	

* 場所および状況については、次ページに具体例を挙げましたので、ご参照ください。

状況コメント 中毒事故の発生状況に関して、上記選択肢よりも詳細な情報があれば、上の例を参考に自由にテキスト入力してください。

発生年月日 西暦で数値入力してください。

- 時刻 24 時間表記で数値入力し、午前・午後がわかればチェックしてください。
また、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。
- 受診年月日 西暦で数値入力してください。
- 時刻 24 時間表記で数値入力し、午前・午後がわかればチェックしてください。
- 症状 来院前については、無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。
来院時、来院後については、無し・有りのいずれかにチェックしてください。
- 初診時バイタル 初診時の体温、血圧、脈拍数、呼吸数を数値入力してください。
意識レベルに関しては、グラスゴーコーマスケール(GCS)で数値入力すると、横に合計が自動表示されます。
- 処置 来院前については、無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。
来院後については、無し・有りのいずれかにチェックしてください。

* 場所および状況の例

- ・会社で実験中、手袋をしていなかったためにフッ酸が従業員の手に付着した
→ 製造業従事者／仕事場／労災
- ・学校で実験中、手袋をしていなかったためにフッ酸が教師の手に付着した
→ サービス業従事者／学校／労災
- ・学校で実験中、手袋をしていなかったためにフッ酸が生徒の手に付着した
→ 学生／学校／その他の誤使用

- ・畑に農薬散布中、風向きが変わり、農業従事者が少量吸ってしまった
→ 農業従事者／仕事場／労災
- ・畑に農薬散布中、風向きが変わり、隣家の主婦が少量吸ってしまった
→ 家事専従者／仕事場／不慮一般

- ・工場から有毒ガスが漏れ出し、従業員が吸入した
→ 製造業従事者／仕事場／労災
- ・工場から有毒ガスが漏れ出し、周辺警備の警察官が吸入した
→ サービス業従事者／仕事場／労災

- ・民家が火事になり、消防士が消火作業中に有毒ガスを吸入した
→ サービス業従事者／居住内／労災
- ・民家が火事になり、赤ん坊が有毒ガスを吸入した
→ 無職／居住内／不慮一般

- ・病院で中毒患者の治療中、看護師が二次汚染を受けた
→ サービス業従事者／医療施設／労災
- ・高速道でタンクローリーが横転、運転者がガスを吸った
→ サービス業従事者／車内／労災

画面詳細－物質・経路

- ・中毒の原因物質とその曝露経路を入力します。複数物質ある場合は、物質ごとに入力できます。
- ・画面は大きく3つに分かれています。

左: 申告物質入力フォーム

- ・新規入力ワクは左端に※が表示されています。入力を開始した時点で△表示に変わり、その下に※のついた新しい入力ワクが表示されます。
- ・選択されている申告物質は左端に△が表示され、経路の上にも申告物質名が表示されます。
- ・複数物質を入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。
- ・削除する場合は、削除する物質名を選択した上で右上にある「物質削除」ボタンを使用してください。

中: 経路選択リストボックス

右: 物質ごとに入力した経路の明細

- ・複数経路を入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。
- ・削除する場合は、削除する経路を選択した上で右上にある「経路削除」ボタンを使用してください。

申告物質名 できるかぎり商品名で、むずかしければ一般名で、具体的にテキスト入力してください。

物質コメント 物質の用途、含有成分などがわかれば、具体的にテキスト入力してください。

曝露量 曝露量に関して、 μg 、 mg 、 g 、 kg 、 mL 、 L のいずれかの単位で表記できる場合は、対応する量を数値入力してください。幅表示も可能です。例) 50~100

単位 μg 、 mg 、 g 、 kg 、 mL 、 L のいずれかをプルダウンメニューから選択し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。

量コメント 曝露量に関して上記単位に当てはまらない場合は、単位と合わせてテキスト入力してください。
例) 30錠、1コ、1/2本、3cm、なめた程度、一口、一瞬

経路 リストボックス上で選択してください。
選択した項目は白黒反転しますので、確認ののち、ダブルクリックするか、ボタンを押してください。

複数経路入力が可能です。

例) 顔に浴びて眼と口に入った場合→経口、眼

経路コメント 経路に関して、特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。

画面詳細一転帰

患者の転帰に関する情報を入力します。

診断 診断に関して、テキスト入力してください。

症状との因果関係 物質と症状との因果関係に関し、無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

症状との因果関係内容 物質と症状との因果関係の根拠など、自由にテキスト入力してください。

入院期間 入院日と退院日を西暦で数値入力してください。

外来通院期間 退院後のフォローを含め、通院開始年月日と終了年月日を西暦で数値入力してください。

転院 無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

転院目的 転院目的に関して、重症管理、略治フォロー、中毒以外の基礎疾患の治療、その他、不明のいずれかをプルダウンメニューから選択してください。

転院目的その他内容 その他の場合はテキスト入力してください。

転院先病院名 テキスト入力してください。

転院先 TEL テキスト入力してください。

転院先所属 テキスト入力してください。

- 転院先担当医名 わかれば、テキスト入力してください。
- 転帰 完治・略治・死亡・不明のいずれかにチェックしてください。
- 死亡年月日 死亡の場合、西暦で数値入力してください。
- 死亡時刻 死亡の場合、24時間表記で数値入力してください。
- 死因 直接の死因をテキスト入力してください。
- 後遺症 無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。
- 後遺症内容 後遺症の内容に関して、自由にテキスト入力してください。
- 重症度 無症状・軽症・中等症・重症・死亡のいずれかにチェックしてください。
- 症例サマリー 出現症状、異常検査値、治療等に関して、特に時間経過および障害の程度がわかるようにテキスト入力してください。
- 主治医コメント 中毒原因物質と症状の因果関係、事故発生の背景等を含め、先生のお感じになったことを自由にテキスト入力してください。

画面詳細－症状

- ・複数症状入力が可能ですので、出現した全ての症状について、出現期間とともに入力してください。
- ・画面は大きく2つに分かれています。

左: 症状選択リストボックス(器官別、登録症状、症状・徴候)

右: 入力した症状の明細表示

- ・症状を複数入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。
- ・削除する場合は、削除する症状を選択した上で右上にある「症状削除」ボタンを使用してください。

症状 器官別、登録症状、症状・徴候の順に、リストボックス上で選択してください。
 選択した項目は白黒反転しますので、確認ののち、ダブルクリックするか、 ボタンを押してください。
 右側、症状明細の水色部分に、選択した症状の器官別、登録症状、症状・徴候が自動表示されます。

出現年月日 西暦で数値入力してください。

時刻 24 時間表記で数値入力し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。

消失年月日 西暦で数値入力してください。

時刻 24 時間表記で数値入力し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックして

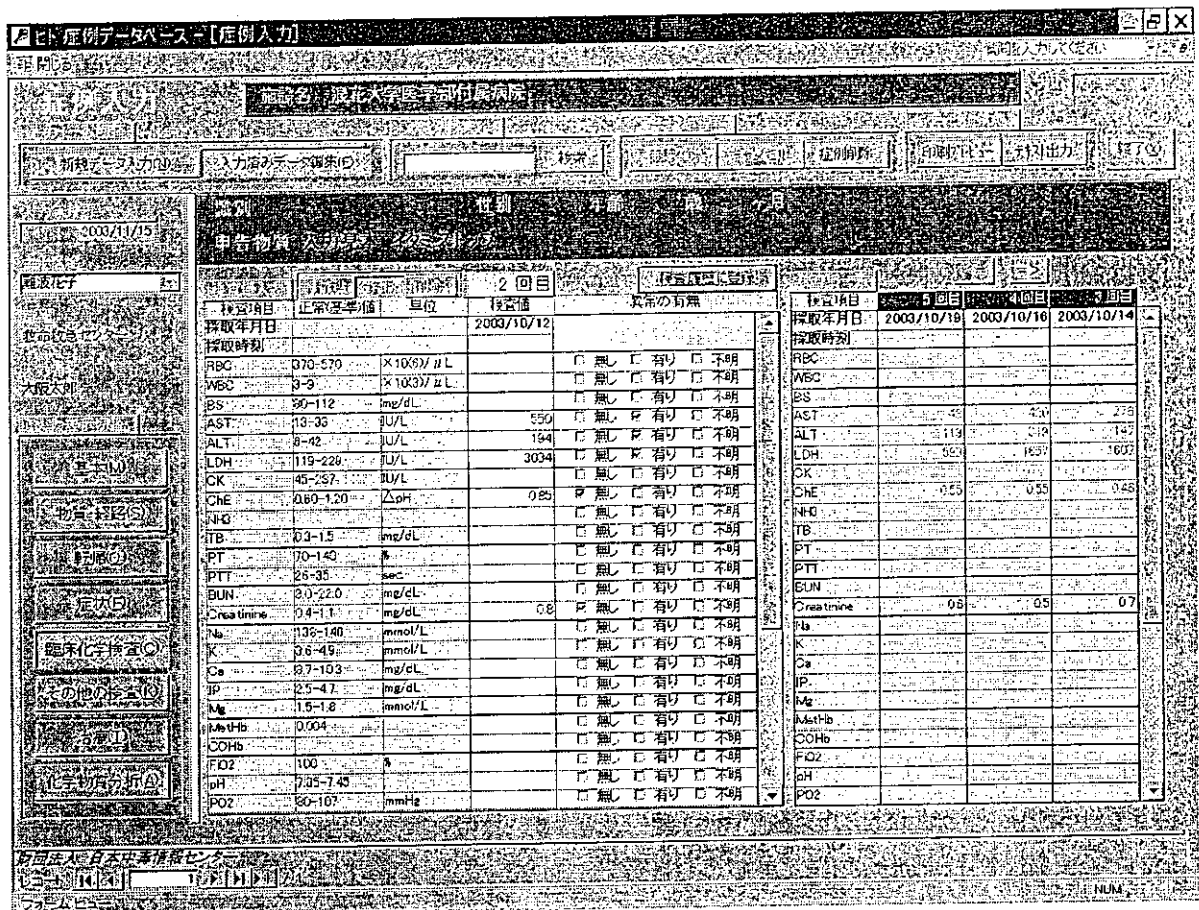
ください。

特記事項 症状に関して、特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。
特に、意識レベル、体温、呼吸数、脈拍、血圧等、異常を客観的に表記できる値がある場合は、具体的な数値を入力してください。

***リストボックスにない症状の場合**

器官別、登録症状、症状・徴候ともその他を選択し、その症状の詳細を特記事項にテキスト入力してください。

画面詳細—臨床化学検査



・各種検査値を入力し、異常の有無をチェックします。

複数回検査の入力が可能ですので、試料採取年月日、時刻ごとにまとめて入力してください。

・画面は大きく2つに分かれています。

左: 検査値入力フォーム

- ・試料採取年月日、時刻ごとに入力します。
- ・入力できる検査項目は、固定 27 項目 (RBC~HCO3) + 任意の 10 項目で、縦に並べて表示されていますので、画面をスクロールしてください。
- ・正常(基準)値および単位は、貴施設で管理者が入力した値が表示されています。
- ・入力後、**検査履歴に登録** ボタンを押すと、右側の検査値一覧にデータが追加されます。
- ・修正ボタンを押すと、修正する回数を尋ねてきますので、半角数字で入力してください。
- ・削除する場合は、削除する回数を選択した上で上にある**削除** ボタンを使用してください。

右: 検査値一覧

- ・すでに入力された検査値について、横軸に採取年月日・時刻、縦軸に検査項目をとり、一覧表示したものです。
- ・異常有りにチェックのついた値は、赤色で表示されます。
- ・隠れている検査項目をみる場合には、画面をスクロールしてください。
- ・横軸は時間の経過とともに右から左へ羅列されていますので、隠れている回数をみる場合には、

← → ボタンを使って移動させてください。

検査値 各検査項目ごとに、値を数値入力してください。

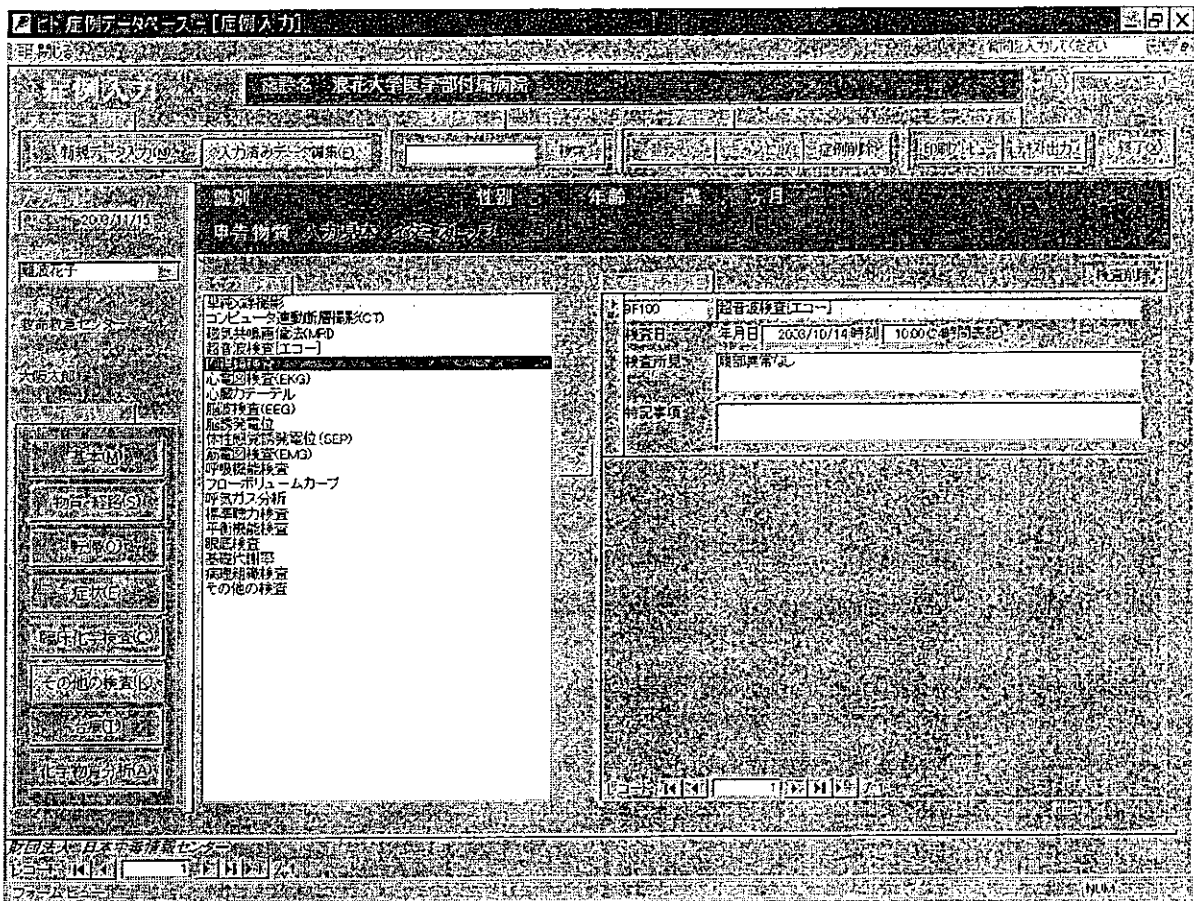
異常の有無 各検査項目ごとに無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

特記事項 各試料採取時刻ごとに特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。
(画面を一番下までスクロールすると、表示されます)

*** 任意 10 項目の入力**

検査項目、正常値、単位、検査値の各項目にテキスト入力し、異常の有無をチェックしてください。

画面詳細－その他の検査



・臨床化学検査以外の検査に関して入力します。

複数検査の入力が可能ですので、行った検査を全て入力してください。

・画面は大きく2つに分かれています。

左:その他検査選択リストボックス

右:入力したその他検査の明細表示

その他検査を複数入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。

削除する場合は、削除する検査を選択した上で右上にある「検査削除」ボタンを使用してください。

その他検査 リストボックス上で選択してください。

選択した項目は白黒反転しますので、確認ののち、ダブルクリックするか、 ボタンを押してください。

右:その他検査明細の水色部分に、選択した検査が自動表示されます。

検査日 西暦で数値入力してください。

時刻 24 時間表記で数値入力してください。

検査所見 テキスト入力してください。

特記事項 検査に関して、特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。

*リストボックスにないその他検査の場合

その他の検査を選択し、その検査名を特記事項にテキスト入力してください。

画面詳細－治療

・複数治療の入力が可能ですので、行った治療を全て入力してください。

・画面は大きく2つに分かれています。

左: 治療選択リストボックス(大分類、小分類)

右: 入力した治療の明細表示

治療を複数入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。

削除する場合は、削除する治療を選択した上で右上にある「治療削除」ボタンを使用してください。

治療 大分類、小分類の順に、リストボックス上で選択してください。

選択した項目は白黒反転しますので、確認ののち、ダブルクリックするか、 ボタンを押してください。

右側、治療明細の水色部分に、選択した治療の大分類・小分類が自動表示されます。

治療その他 治療に関して、より詳細な情報があれば、テキスト入力してください。

使用物質 使用した薬剤やガス(気圧)に関して、商品名または一般名でテキスト入力してください。

使用量 使用した薬剤やガスの1回使用量を数値でテキスト入力してください。

経過中に1回使用量を変更した場合や総量については、特記事項に入力してください。

単位 選択肢の中から選択・チェックしてください。

- 経路 経口、吸入、静注、皮下注、筋注、経皮、その他の中から選択・チェックしてください。
- 使用回数 回数を数値で数値入力してください。
- 開始日 西暦で数値入力してください。
- 時刻 24時間表記で数値入力し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。
- 終了日 西暦で数値入力してください。
- 時刻 24時間表記で数値入力し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。
- 特記事項 薬剤使用方法の詳細や使用した機器の名称など、治療に関して、特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。

*リストボックスにない治療の場合

大分類を選択後、小分類でその他を選択するか、大分類・小分類ともその他を選択したうえで、その治療名を治療その他にテキスト入力してください。

画面詳細－化学物質分析

・複数回の化学物質分析の入力が可能です。

自施設で化学物質分析を行った場合は、分析した回数分を全て入力してください。

送付いただいた検体の分析結果は、後ほど日本中毒情報センターで一括入力します。

・画面は大きく2つに分かれています。

左: 化学物質選択リストボックス(指定化学物質分類、指定化学物質)

右: 入力した化学物質分析の明細表示

複数回入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。

削除する場合は、削除する分析を選択した上で右上にある「分析削除」ボタンを使用してください。

化学物質 指定化学物質分類、指定化学物質の順に、リストボックス上で選択してください。

選択した項目は白黒反転しますので、確認ののち、ダブルクリックするか、「→」ボタンを押してください。

右側、化学物質明細の水色部分に、選択した化学物質名が自動表示されます。

化学物質名その他 選択した化学物質に関するより詳細な情報がある場合や、リストにない化学物質の場合は、テキスト入力してください。

検体種類 使用した検体の種類をプルダウンメニューから選択してください。

検体その他 選択した検体に関するより詳細な情報がある場合や、リストにない検体の場合は、テキスト入力してください。

検体採取日	西暦で <u>数値入力</u> してください。
時刻	24 時間表記で <u>数値入力</u> してください。
保存方法	検体の保存方法を、冷凍(-18℃)、冷凍(-5℃)、冷蔵など、具体的に <u>テキスト入力</u> してください。
発送日	送付いただいた検体に関するデータ入力に使用します。
検体受取量	送付いただいた検体に関するデータ入力に使用します。
検体使用量	送付いただいた検体に関するデータ入力に使用します。
検体残量	送付いただいた検体に関するデータ入力に使用します。
定量値	<u>数値入力</u> してください。
単位	<u>プルダウンメニュー</u> から選択してください。
正常値	<u>数値入力</u> してください。
異常有無	無し・有り・不明のいずれかに <u>チェック</u> してください。
分析方法	分析方法(手法)に関して、 <u>テキスト入力</u> してください。
前処理	前処理に関して、 <u>テキスト入力</u> してください。
分析機器	使用した機器の名称などに関して、 <u>テキスト入力</u> してください。
分析条件	分析条件に関して、 <u>テキスト入力</u> してください。
分析者	分析者所属、名前を <u>テキスト入力</u> してください。
分析日	西暦で <u>数値入力</u> してください。
ピーク値	複数回測定でピーク値と認められれば、1を <u>数値入力</u> してください。
特記事項	検体採取時の状況に関して特記すべきことがある場合（血液浄化法施行、気管内挿管のため薬物を使用した等）、また分析に関して特記すべきことがある場合は、 <u>テキスト入力</u> してください。

***リストボックスにない化学物質の場合**

指定化学物質分類を選択後、指定化学物質でその他を選択するか、指定化学物質分類、指定化学物質ともその他を選択したうえで、その化学物質名を化学物質名その他にテキスト入力してください。

ヒト症例データ

入力ID:

1

作成日: 2004/04/01 13:56:04

浪花大学医学部付属病院

主治医: 難波花子

患者 28歳 5ヵ月 女性

識別: YH750423

申告物質 入力見本 イタミストップ

入力年月日: 2003/11/15 主治医: 難波花子

救命救急センター

医長

記入者: 大阪太郎

救命救急センター

医局長

基本

年齢 28歳 5ヵ月 確定 性別: 女性 体重: 49 kg 確定

職業 家事専従者

既往歴 有り 自律神経失調症

現病歴・曝露状況 長女出産後、育児に悩んでいた。10月10日、夫の出張中に、衝動的に市販の解熱鎮痛剤を大量に摂取。翌日訪れた母親に昏睡状態で倒れているのを発見され、救急車で本院に搬送後緊急入院した。患者本人の後日談によりイタミストップ320錠を内服したとのこと。

発生場所 居住内 コメント 本人自宅

状況 故意 自殺企図 コメント

発生年月日 2003/10/10 17:00 推定

受診年月日 2003/10/11 12:00 午前

症状 来院前 有り 来院時 有り 来院後 有り

初診時 体温: 35 °C 血圧: 80 / 40 mmHg 脈拍数: 80 /分 呼吸数: 40 /分

GCS: E 1 V 1 M 1 計 3

処置 来院前 無し 来院後 有り

物質・経路

申告物質名: 入力見本 イタミストップ

経路: 経口

申告物質名コメント: 1錠中アセトアミノフェン100mg含有

経路コメント:

曝露量: 確定

曝露量コメント: 10箱320錠(アセトアミノフェン32g相当)

転帰

診断: アセトアミノフェン過量摂取による急性肝障害

症状との因果関係 有り 症状、経過より、因果関係は明らかである

入院期間: 2003/10/11 ~ 2003/11/09

通院期間: ~

転院: 有り 転院目的: 中毒以外の基礎疾患の治療

転院目的その他:

転院先 病院名: 難波病院

所属: 心療内科

担当医名: 江戸 TEL:

転帰: 完治 死亡年月日:

死因:

後遺症: 無し 後遺症内容:

重症度: 重症

症例サマリー: 自殺企図で、鎮痛剤320錠(アセトアミノフェン32g含有)を17時頃摂取した。翌日昏睡状態で倒れているのが発見された。摂取19時間後の受診時には、意識レベルⅢ-300、対光反射なし、痙攣、頰脈、血圧低下、過呼吸、嘔吐があった。またGOT64IU/L、GPT29IU/L、LDH650IU/Lであった。胃洗浄を行い、活性炭と下剤を投与し、大量輸液、強制利尿、昇圧薬の投与を行った。血液透析(3hr)を施行したところで意識が回復し、以降連日4日間施行した。さらに、N-アセチルシステイン(40mL×18回)および強カネオミノファーゲン(2A×20回)の投与を行った。摂取25時間後のアセトアミノフェン血中濃度は、64.6 μg/mL(Rumack-Matthewのノモグラム上で中毒域以上)であった。2病日にはGOT550IU/L、GPT194IU/L、LDH3,034IU/Lと検査値が上昇したが、その後徐々に全身状態は改善し30病日に完治退院した。

浪花大学医学部付属病院

主治医: 難波花子

患者 28歳 5ヵ月 女性

識別: YH750423

申告物質 入力見本 イタミストップ

主治医コメント: 本症例は入院時昏睡状態でアセトアミノフェンを致死量を超過する量を内服したため予後が非常にあやぶまれたが同日透析を施行したところ意識を回復し以降連日4日間血清透析を施行し、他に大量輸液、利尿剤、昇圧剤、吸着剤(活性炭)、下剤(マグコロール)の投与を施行したところ全身状態は徐々に改善し急性期の処置の重要性を痛感した。また、アセトアミノフェンによる薬物中毒の際劇症肝炎の発症が懸念されるとの報告例もあり肝庇護剤およびアセチルシステインの大量内服により肝機能障害は軽度にとどまった。劇症肝炎発症後はアセチルシステイン内服効果があるのかどうかおよび同剤の劇症肝炎発症の有用性のデータ等につき御一報していただければ幸いです。

症 状

神経・精神症状		出現:	2003/10/11	不明
意識障害	昏睡	消失:	2003/10/11	確定
特記事項:	JCSでⅢ-300、深昏睡			
神経・精神症状		出現:	2003/10/11	不明
痙攣	痙攣	消失:	2003/10/11	確定
特記事項:				
循環器症状		出現:	2003/10/11	不明
頻脈	頻脈	消失:	2003/10/11	確定
特記事項:				
循環器症状		出現:	2003/10/11	確定
低血圧	低血圧	消失:	2003/10/11	確定
特記事項:	来院時80/40			
呼吸器症状		出現:	2003/10/11	推定
頻呼吸	過呼吸	消失:	2003/10/11	確定
特記事項:				
眼症状		出現:	2003/10/11	推定
対光反射の遅延	対光反射の遅鈍化	消失:	2003/10/11	確定
特記事項:	対光反射無			
肝症状		出現:	2003/10/11	推定
肝臓の異常	肝炎	消失:	2003/10/20	確定
特記事項:				
曝露時の刺激症状・不定愁訴		出現:	2003/10/11	不明
消化器系の刺激症状	嘔吐	消失:	2003/10/11	不明
特記事項:				

臨床化学検査

検査項目	検査日	時間	検査値	単位	正常値	異常	測定機関
AST	2003/10/11		64	IU/L	13-33	有り	院内(救急部)
	2003/10/12		550			有り	
	2003/10/14		276			有り	
	2003/10/16		420			有り	
	2003/10/19		48			有り	
ALT	2003/10/11		29	IU/L	6-42	有り	院内(救急部)
	2003/10/12		194			有り	
	2003/10/14		147			有り	
	2003/10/16		319			有り	
	2003/10/19		113			有り	

ヒト症例データ

入力ID:

1

作成日: 2004/04/01 13:56:04

浪花大学医学部付属病院

主治医: 難波花子

患者 28歳 5ヵ月 女性

識別: YH750423

申告物質 入力見本 イタミストップ

LDH	2003/10/11	650 IU/L	119-229	有り	院内(救急部)
	2003/10/12	3034		有り	
	2003/10/14	1607		有り	
	2003/10/16	1657		有り	
	2003/10/19	593		有り	
ChE	2003/10/11	0.84 ΔpH	0.60-1.20		院内(救急部)
	2003/10/12	0.85			
	2003/10/14	0.46		有り	
	2003/10/16	0.55		有り	
	2003/10/19	0.55		有り	
Creatinine	2003/10/11	0.8 mg/dL	0.4-1.1		院内(救急部)
	2003/10/12	0.8			
	2003/10/14	0.7			
	2003/10/16	0.5			
	2003/10/19	0.6			
pH	2003/10/11	7.36	7.35-7.45		院内(救急部)
PO2	2003/10/11	119 mmHg	80-107	有り	院内(救急部)
PCO2	2003/10/11	28 mmHg	35-48	有り	院内(救急部)
BE	2003/10/11	-7.1 mEq/L	-2.5~+2.5	有り	院内(救急部)
Bil	2003/10/11	0.5 mg/dL	0.4-1.2		
	2003/10/12	0.7			
	2003/10/14	0.8			
	2003/10/16	0.8			
	2003/10/19	0.7			
BUN	2003/10/11	20.8 mg/dL	7.6-21.0		
	2003/10/12	15			
	2003/10/14	16			
	2003/10/16	13			
	2003/10/19	13.8			
Amy	2003/10/11	1707 IU/L	38-145		
	2003/10/12	935			
	2003/10/14	47			
	2003/10/16	32		有り	
	2003/10/19	43			
CPK	2003/10/11	8976 IU/L	32-175		
	2003/10/12	10000		有り	
	2003/10/14	10000		有り	
	2003/10/16	3174		有り	
	2003/10/19	421		有り	

その他検査

その他検査: 超音波検査[エコー]
 検査日: 2003/10/14 10:00
 検査所見:
 特記事項: 腹部異常なし

浪花大学医学部付属病院

主治医: 難波花子

患者 28歳 5ヵ月 女性

識別: YH750423

申告物質 入力見本 イタミストップ

治療

消化管除染

胃洗浄

治療その他:

使用物質: 生理食塩水

1回使用量: 4 L

使用回数: 1回

経路: 経口

開始日: 2003/10/11 12:00 確定

終了日: 2003/10/11 12:00 確定

特記事項:

消化管除染

活性炭投与

治療その他:

使用物質: 活性炭

1回使用量: 50 g

使用回数: 1回

経路: 経口

開始日: 2003/10/11 12:30 確定

終了日: 2003/10/11 12:30 確定

特記事項:

消化管除染

下剤投与

治療その他:

使用物質: マグコロール

1回使用量: 200 mL

使用回数: 1回

経路: 経口

開始日: 2003/10/11 12:30 確定

終了日: 2003/10/11 12:30 確定

特記事項:

排泄促進

強制利尿

治療その他: アルカリ強制利尿

使用物質: メイロン

1回使用量: 40 mL

使用回数: 12回

経路: 静注

開始日: 2003/10/11 確定

終了日: 2003/10/14 確定

特記事項:

排泄促進

血液透析

治療その他:

使用物質:

1回使用量:

使用回数: 4回

経路:

開始日: 2003/10/11 確定

終了日: 2003/10/14 確定

特記事項: 3時間×4回

解毒剤・拮抗剤

アセチルシステイン

治療その他:

使用物質: アセチルシステインセンジュ

1回使用量: 20 mL

使用回数: 18回

経路: 経口

開始日: 2003/10/11 13:00 確定

終了日: 2003/10/14 13:00 確定

特記事項: 4時間ごと、計18回投与。初回のみ倍量(40mL)投与。